

果樹農家のみなさまへ、時季ごとの耳より情報をお届けします



枯死症対策1：発生樹の特徴



- 県下モモ園において発生する**枯死症**の特徴や対策について主に果樹試験場の研究資料を用いて、数回にわたり連載します。**冬～春季管理**の参考にして下さい。
- モモの枯死症は、以下の症状を示します。
 - ・ 樹齢6年生までの**若木**に発生が多い。
 - ・ 春先に発芽はするが、新梢が伸長せずに**枯れる**（写真）。
 - ・ 台木は健全で**ヒコバエ**の発生がみられる。
- 発生樹の主な特徴(以下の症状が複数見られる園が多い)
 - ・ 冬季剪定時の**強剪定**により、主幹部や主枝に**太枝を切除**した切り口が多数あり、その切り口から**主幹部に枯れ込み**が入っている。
 - ・ **剪定した枝の基部が切り残され**(通称：でべそ切り)、その切り口から主幹部にまで枯れ込みが入っている。
 - ・ 主幹部に**裂傷**が発生している。
 - ・ **胴枯病**の発生が多い。・ 枝が**軟弱徒長**している。



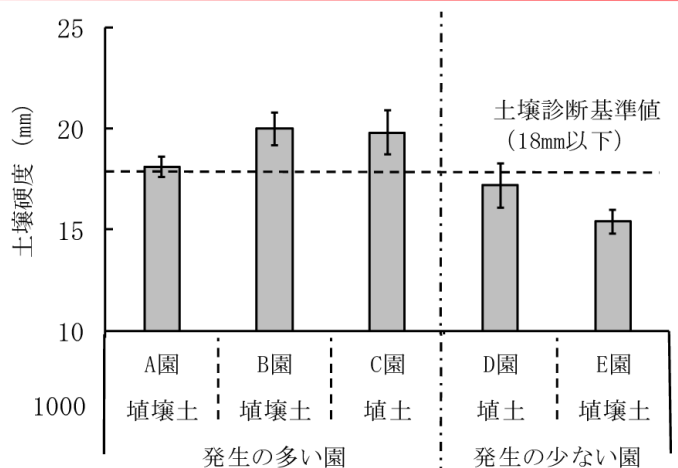
写真. 枯死症の発生樹
(日川白鳳、4月25日)



モモ園土壌物理性と核割れ発生



- モモの核割れは、品種や栽培管理以外に**土壌物理性の影響**も少なくありません。
- 果樹試験場によると、核割れが多く発生する園土壌は**硬く、透水性は悪く、気相率**(土壌中に含まれる空気の割合)**が低い**傾向にあります。
- 基肥を施肥する際には**有機物による土作り**も同時に行ないましょう。
- これにより土壌水分の急激な変動が緩和され収量や果実品質が低下しない**安定栽培の実現**につながります。



モモ核割れ発生園の土壌硬度
(品種: 白鳳、果樹試験場成果情報)